

ATCミュージアム

アジア太平洋トレードセンター
O's棟南館地下2階



ミュージアムトーク
(学芸員による解説)

●作品解説
毎週 火曜日・土曜日 pm2:00~

●テーマ別解説
毎週 土曜日 pm3:30~

会期中出品作品の一部を
展示替えします。

前期: 1月26日(日)まで

後期: 1月28日(火)より

大阪市立近代美術館「仮称」展覧会

吉原治良「作品」1993年頃



美術都市★大阪見全見

観覧料

●一般 500円(400円)

●高校・大学生 300円(200円)
()内は20名以上の団体料金

●小・中学生 無料

主催・大阪市教育委員会

後援・財団法人 大阪21世紀協会

●お問い合わせ
近代美術館建設準備室
06-208-9096
ATC
06-615-5006

島 成園「祭りのよそおい」1913



近代美術と大阪イズム

1997

1・11[±]sat

am11:00-pm6:00 (入場はpm5:30まで) 月曜休館

2・9 sun

日本有数の大都市大阪は、独自の美術風土から、東京、京都とは一味違う個性的な近代美術を開花させ、時には大阪に拠点をおく美術が日本全体をリードすることさえありました。大阪市では、北区中之島四丁目に計画中の近代美術館（仮称）のコレクションを毎年公開してまいりましたが、本年度は、回顧される機会が少ない大阪の近代美術の歴史にテーマを絞り、新発見を多数含む日本画、油彩画、版画、写真、商業美術など約240点の作品・資料で展観いたします。

1.伝統からの跳躍

— 大阪の近代日本画 —

大正時代、大阪の日本画壇は転換期をむかえ、デカダンスの情趣から“悪魔派”と呼ばれた北野恒富を中心に、大正美術会の金森觀陽や矢野橋村、白堀社の島成園、木谷千種、中村貞以など個性的な画家たちが活躍する。



難波春秋
「嫁ぐ日」
1924

美術都市★大阪の発見

3.交錯する領域

— 前衛美術、版画、写真、商業美術 —

モダニズムの時代。未来派、超現実主義、抽象など前衛美術が盛んで、長谷川三郎、石丸一、吉原治良など九室会、ロボット洋画協会の画家や版画家前田藤四郎、浪華・丹平両写真俱楽部、商業美術など、都市の消費生活を背景にジャンルが交錯する。



前田藤四郎
「標本採集」
1930

2.モダニズムへの道

— 大阪の近代洋画 —

大阪は小出信重など傑出した洋画家を生む。山内愚懶、赤松麟作など明治時代の先駆者から、大正・昭和初期の小出や鍋井克之の信濃橋洋画研究所、赤松洋画研究所、艸園会などの画家たちに至る大阪の洋画の華々しい歴史を追跡する。



小出信重
「卓上静物(西瓜のある静物)」
1928

近代美術と大阪イズム

4.戦後美術の出発

— 60年代初頭まで —

戦後、デモクラート美術家協会、ゲンビ、具体美術協会、モダンアート協会、パンリアル美術協会など革新美術団体が結成される。瑛九、泉茂や吉原治良など、戦後美術の原点となる1960年代までの重要な美術運動の作家たち。



元永定正
「No Moon in the Water No.3」
1960

ATCミュージアム

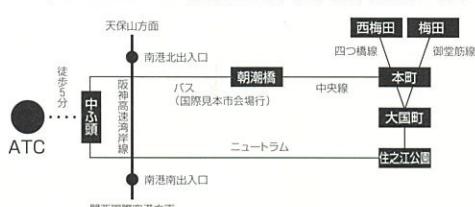
アジア太平洋トレードセンター O's棟南館地下2階
大阪市住之江区南港北2-1-10



●南港コスモスクエア行き シャトルバス利用の場合



●地下鉄・ニュートラム・阪神高速湾岸線(自動車)利用の場合



●阪神高速湾岸線・天保山方面からお越しの場合は「南港北出入口」より、堺・大阪南部方面からお越しの場合は「南港南出入口」より、「インテックス大阪」方面へ。
駐車料金：1時間350円／以降30分毎に150円